

WEEKLY SIGNAL

平成27年11月6日(金) 1298号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/9(月)	11/10(火)	11/11(水)	11/12(木)	11/13(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 1,200	+ 1,000	トシ	トシ	△ 1,000
財政他	△ 28,100	△ 19,000	+ 1,000	△ 6,000	+ 3,000
資金需給	不 26,900	△ 18,000	余 1,000	不 6,000	余 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年)	国庫短期証券発行・償還(6M)		10年物価連動債発行 源泉税揚げ 交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,400 CP等買入 △ 200				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,700	国債買入 + 4,700 CP等買入 + 3,500			
(日本)	マネタリーベースと日本銀行の取引(10月) 毎月勤労統計(9月) コール市場残高(10月)	国際収支(9月) 企業倒産(10月) 景気ウォッチャー調査(街角景気10月調査)	原田日銀審議委員講演(宇都宮市) マネーストック(10月)	企業物価指数(10月) 対外対内証券売買(前週分) 日銀営業毎旬報告(11月10日現在) 日銀が保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額	投信概況(10月) マネタリーサーベイ(9月)
(海外)	OECD経済見通し 米 労働市場情勢指数(10月) 欧 ユーロ圏財務相会合(ブリュッセル)	米 輸入物価指数(10月) 欧 EU財務相理事会(ブリュッセル)	米 ヘテランズデーの祝日で債券市場休場 米 MBA住宅ローン申請指数(6日終了週) 欧 ドラギECB総裁講演(ロンドン)	米 新規失業保険申請件数(7日終了週) 米 財政収支(10月) 米 NY連銀総裁講演 米 シカゴ連銀総裁講演 米 リッチモンド連銀総裁がパネル討論会に出席	米 生産者物価指数(10月) 米 シガン大学消費者マインド指数(11月) 欧 ユーロ圏7-9月GDP 11/15(土) G20首脳会議(トルコ)

＜インターバンク市場＞

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.075 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.155
SPOT 3M	0.119 ~ 0.160
SPOT 6M	0.120 ~ 0.170

＜インターバンク＞

今週の日銀当座預金残高は週初246兆円台から始まり、その後は税揚げ等の影響により4日には244兆円台に減少したが、日銀による国債・国庫短期証券買入オペ等潤沢な資金供給により週末には248兆4,500億円まで増加した。無担保コールON物は一部試し取りが実施されたことから、0.12%超の出合いも散見されたが、概ね0.073~0.078%で推移した。加重平均金利は試し取りの影響で4日は0.085%まで上昇したが、その他は0.076~0.077%となった。ターム物は1~2W物が0.11%台後半で取引された。2日に国庫短期証券買入オペが前回分(10月23日オファー、オファー額1兆5,000億円、応札額2兆8,570億円、応札倍率1.90倍)から7,500億円減額の7,500億円でオファーされ、応札額1兆5,072億円・応札倍率2.01倍となり、応札額は減少したが、応札倍率は前回とほぼ同様の結果となった。来週の材料は国内では国際収支(10日)、企業物価指数(12日)、海外では米労働市場情勢指数(9日)、G20首脳会議(15~16日)が挙げられる。

＜オープン市場＞

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.060 ~ 0.080
TDB 3M	△0.010 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

＜CP＞

今週の入札発行額は約3,300億円で、期落ち額約5,300億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に下回った。鉄鋼や石油を中心に資金需要が細っており、10月末の市場残高は15か月ぶりに前年同月割れとなった。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.070%台前半~0.080%台後半で推移した。現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約4,700億円程度となっている。

＜TDB＞

5日に国庫短期証券3M第568回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0037%(前回債△0.0018%)、平均落札レートは△0.0055%(前回債△0.0037%)と前回債から利回りは低下した。セカンダリーは3Mで△0.004%近辺の出合い。6Mは△0.015%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週12日に3Mの入札が行われる予定である。

＜レポ＞

足許GCは週初短国買入オペが7,500億円オファーされたこともあり、先週末対比0.01%程度低下の0.05%近辺の出合から始まり、引けにかけて0.03%まで低下した。5日にはTDB3M・10年債入札が行われ、0.05%の出合から始まったものの資金調達意欲が薄く、0.025%までレートが低下したが、翌日のT/Nでは0.055%まで反転した。6日にはTDB6Mの入札が行われ、0.05~0.065%での出合をつけ越週した。SCは10年336回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。10年340回債は5日の入札に向けてO/N物でネガティブレートでの出合が見られたが、リオープン後のビッドは限定的だった。5年債は124・125回債、10年債は323・327・328・329・333・335・339回債、20年債は152・153・154回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。